

やまぐちユニセフ通信

unicef 
for every child

No.4

2018年秋号

《発行》

山口県ユニセフ協会

インドネシア地震

危険にさらされる子どもたちに支援を



2018年9月28日、インドネシア中部のスラウェシ島でマグニチュード7.4の地震が発生。発生からおよそ2ヶ月。犠牲者は2,000人以上、避難を余儀なくされた人は21万人以上とされており、犠牲者の数は増え続けています。今回の地震で子ども66万人を含む190万人が影響を受けており、140万人が支援を必要としています。

2004年に22万人以上が犠牲になったスマトラ島沖地震の経験からもわかるとおり、緊急発生時の迅速な対応はもちろん、復興には長期的な取り組みが欠かせません。緊急の救命活動が現地では行われておりユニセフはいちはやく被災地に入り、インドネシア政府と連携しながら、水と衛生・栄養・保健・教育・子どもの保護の分野で活動を展開しています。

2,000人以上が犠牲になる中で家族と離れたり、保護者を伴っていない子どもの数も多くなることが見込まれており、出生登録の割合が33%と低いインドネシアでは子どもたちが搾取や人身売買にあうリスクも高くなります。今回の地震でおよそ5,000人の子どもが保護者を伴っておらず、心理社会ケアが早急に求められます。10月23日までに保護者を伴わない子どもが98人確認されており、家族との再会を急ぐ必要があります。ユニセフは家族の再会のための支援や、子どもへの心理社会ケアの提供、子どもにやさしい空間の設置、レクリエーションキットの提供などの準備を進めています。また、教育の面では、すでに2,700を超える学校や早期幼児開発センターが影響を受けており27万人以上の子どもたちが影響を受け、教育の機会を奪われています。ユニセフは10月8日までに47の一時的な学校のための資材を提供しました。

また、保健の分野でも、地震の以前から麻疹・風疹混合生ワクチンの予防接種率は49%と低く、栄養不良の割合も高い地域でした。保健センターも閉鎖され、限られた人員でしか開設できておらず、ニーズに対応することが出来ません。今回の地震によってこういった脆弱な立場に立たされている子どもたちはさらに追いやられ、支援から遠ざかってしまいます。影響を受けたスラウェシ中部はもともと衛生施設の利用が普及しておらず、3家庭に1つはトイレが自宅になく、18万世帯以上が屋外排泄を行っている地域でした。こういった地域で水源が確保できないことは安全な飲み水が確保できないだけでなく水を媒介する感染症などの蔓延も懸念されます。



多くの地域が停電や道路の封鎖などで社会インフラから切り離され、支援を必要とする子どもの数は増え続けています。8月にはインドネシア南部のロンボク島でもマグニチュード6を超える地震が相次ぎ、犠牲者は500人を超え、34万人以上が避難生活を強いられています。必要な支援物資は引き続き現地に届けられる予定で、水と衛生キット、450の学校用のテント（4万5,000人の生徒を対象）、300の箱の中の学校キットや早期幼児開発セットが届けられる予定です。また、社会省からの保健福祉士との連携して、心理社会ケアだけでなく子どもの保護サービスも提供しています。ユニセフ・インドネシア事務所は持ちうる全てをもって対応にあたっていますが、物資の提供や最も支援を必要としている地域の緊急の人道支援ニーズにこたえるにはさらなる資金が求められています。ユニセフは今回の緊急事態ならびにロンボク島地震の影響を今でも受けている子どもたちに対して迅速に活動を拡大するために、2018年末までの資金として2,660万米ドルを必要としています。皆さまのあたたかいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

公益財団法人 日本ユニセフ協会ホームページより

「自然災害募金」にご協力いただける方へ

郵便局（ゆうちょ銀行） 振替口座：00190-5-3100 口座名義：公益財団法人日本ユニセフ協会

*通信欄に「自然災害」と明記願います。*窓口での振り込みの場合は送金手数料が免除されます。

●この夏から秋にかけて、山口県下では様々なイベントが開催されました。山口県ユニセフ協会も「世界の子どものこと」・「ユニセフのこと」を多くの方に知っていただこうと、これらのイベントに出展参加しました。

●全国中学校体育大会に出展しました！

今年、中学校体育連盟全国大会（夏季大会）が中国地方5県で開催され、4種目が山口県の各地で開催されました。山口県ユニセフ協会は、山口県中学校体育連盟さまのご厚意で、全会場に「ユニセフコーナー」を出展させていただきました。

■第48回全国中学校相撲選手権大会■（会場：岩国市総合体育館 出展日：8月18日）



大会運営ボランティアの中学生たちは熱心にユニセフ活動の話を知り、平和のオリヅルも折ってくれました。



大会運営ボランティアの何人かは休憩時間を利用して「私たちも参加していいですか？」と自主的に募金活動にも加わってくれました。そのことに県協会スタッフの皆さんも感激していました。

■第47回全国中学校ハンドボール大会■（会場：キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター 出展日：8月19日）



パネル展に合わせて、プロジェクターを使ってユニセフの取り組みを知ってもらおうと、DVD上映もおこなわれました。



前日の岩国会場と合わせ、「Peace Tree」に貼ってもらった「平和のオリヅル」は、下地が見えないほどにいっぱいになりました。

全国大会とあって、北海道から沖縄までの選手や応援のご家族も来られていて、各地のユニセフの支援活動の状況も聞かせてもらいました。

■第48回全国中学校バトミントン大会■

■第48回全国中学校バスケットボール大会■

（会場：維新百年記念公園 出展日：8月19日・23日）



山口会場では、バトミントン大会とバスケットボール大会に合わせ2日間出展。「Peace Santa」のプレゼント袋も「平和のオリヅル」でいっぱいになりました。児童労働の実態を知ってもらおうと持っていった「ネパールの水がめ」に、多くの子どもたちが反応してくれました。

■第48回全国中学校バスケットボール大会■

（会場：維新百年記念公園 出展日：8月19日・23日）



恥ずかしそうに遠目に見ていた男の子たちも声をかけると、「平和のオリヅル」を折ってくれ、世界の子どもの話に耳を傾けてくれました。

- どの会場も、応援についてくれた大会運営ボランティアの子どもたちは、とても協力的にブースのお手伝いをしてくれました。「出展してよかったね！」「こんな子どもたちがユニセフボランティアになったら嬉しいね！」と、県ユニセフ協会のスタッフメンバーも楽しい時間を過ごすことができました。

●山口ゆめ花博に10月15日～21日の一週間、出展しました。

来場者数137万人と盛況の内に閉幕した「山口ゆめ花博」。山口県ユニセフ協会も海外協力とのつながりで、「山口県国際交流協会」さん・「JICA」さんと一緒に、1週間のロング出展をおこないました。



- 「1000万の花が咲き誇るゆめの未来公園はじまる！」のコピーの通り、会場となった「きらら公園」内は、花で埋め尽くされ、山口県内だけでなく県外からもたくさんの方が来場されていました。
- ユニセフ協会は「森のピクニックゾーン」の野外ステージ横の常設テントで、「ユニセフってなあ～に？」のパネル展示を中心に出展しました。野外ステージ横ということもあり、多くの方にお寄りいただき、ユニセフや世界の子どものたちのお話することができました。



- 一緒に出展させていただいた「山口県国際交流協会」さん・「山口県JICAデスク」さんへは、海外の方の応援もあり、随分とインターナショナルなゾーンとなりました。また、出身国の様子なども聞かせていただき、さまざまな文化やくらしがあるんだと、山口県ユニセフ協会のスタッフも随分と勉強になりました。



- 8月にユニセフ出展させていただいた全国中学校体育大会で、皆さんに願いを込めて折っていただいた「平和のツル」を張り付けた「ピースツリー」。随分と花博来場者の目を引き、さらにツルが増えました。



土曜日は一日だけ場所異動でしたが、晴天に恵まれ、たくさんの方にブースに立ち寄りいただき、お話することができました。

●ユニセフ恒例「ハンド・イン・ハンド募金」がはじまりました！

どなたでも活動に参加ができる「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」。(詳細は4ページをご覧ください) 山口県ユニセフ協会もボランティアの皆さんのご協力を得て、今年も各地で取り組みを始めました。



- ⇐ 11月11日(日)萩市の「JAファーマーズマーケットふれあいらんど萩」店頭にて、山口県ユニセフ協会主催の『ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金』活動をおこないました。当日はボランティアの皆さん、高校生や小学生の応援もあり、賑やかな活動となりました。

11月24日(土)周南市の「コープやまぐち こととくやま店」店頭にて今年2会場目となる『ユニセフ ハンド・イン・ハン

ド募金』活動をおこないました。こちらでもボランティアさんのご協力で多くの方の善意をお預かりすることができました。



© UNICEF/UN0160503/Soares

○山口県ユニセフ協会は昨年10月設立のため、この1年間は試行錯誤の連続でしたが、みなさまのお力添えもあって、様々な活動をおこなうことができました。来る2019年も子どもたちの笑顔のために、さらに活動を拡げていきます。変わらぬ、ご支援をよろしくお願い致します。



第40回（2018年度）ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金とは

”手に手をとって”を意味する『ユニセフハンド・イン・ハンド』募金の特色は、事前に登録をすれば誰もがユニセフ・ボランティアとして参加できることです。1979年の国際児童年にはじまり、今年で40回目を迎えます。毎年11月～12月をハンド・イン・ハンド募金月間とし、ユニセフを支援くださる全国のみなさまが、街頭やイベントで職場で学校で、またご家庭の中で、ユニセフ募金活動に工夫を凝らして下さっています。一人ひとりの力が日本中に広がり、大きな力となる募金活動。一緒に世界の子どもたちへ笑顔を届けませんか。多くの方々のご参加をお待ちしています。

●どうやって参加するの？

その1-「日本ユニセフ協会 ハンド・イン・ハンド」のホームページから、簡単に参加申し込みができます。

- ・所定のフォームに必要事項（活動日・場所・活動内容・リーダー等）を入力するだけで、募金活動に必要なツール類が届きます。

<https://www.unicef.or.jp/sp/cooperate/handinhand/>

その2-「山口県ユニセフ協会」が主催するハンド・イン・ハンド募金活動にボランティア参加も大歓迎！

- ・12月の山口県ユニセフ協会による「ハンド・イン・ハンド募金」活動予定は以下の通りです。

地域	月・日	時間	場所
宇部市	12月 8日（土）	10：00～12：00	コープやまぐちこと宇部店
山口市	12月15日（土）	10：00～12：00	コープやまぐちこといすみ店
岩国市	12月16日（日）	11：00～13：00	JR岩国駅前
下関市	12月22日（土）	11：00～13：00	コープやまぐちこと新下関店

- ・ボランティアとしてご参加いただける方は、下記「山口県ユニセフ協会」へ事前に電話でお申し込みください。
- ・上記スケジュールにない場所や日時で募金活動をおこなってみたい方やグループの方も、山口県ユニセフ協会へお気軽にご相談ください。

賛助会員募集！してます

日本ユニセフ協会と各協定地域組織の活動を賛助会費によって支援いただく方法です。

現在山口県でも多くの賛助会員の方にご協力いただいています。

山口から世界の子どもたちを支えましょう！

種類	対象	賛助会費
一般賛助会員	個人	一口 5,000円
学生賛助会員	学生(18歳以上)	一口 2,000円
団体賛助会員	団体、法人、企業	一口 100,000円

賛助会員期間は、入会日より1年間です。賛助会費は寄付金控除の対象になります。

一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限らせていただきます。

いつでもボランティア大歓迎！！

ユニセフや世界の子どもたちに関心のある方はもちろんあなたの好きなことをユニセフ活動にいかしてみませんか？

♪ 絵や文章を書くのが好きな方

♪ 子どもが好きな方

♪ 手作りするのが好きな方

♪ パソコンが得意な方

♪ 学習会の組み立てを一緒に考えてくれる方
などなど



山口県ユニセフ協会

〒753-0083

山口市後河原210番地

TEL083-902-2266

FAX083-928-5416

E-mail: info@unicef-yamaguchi.jp

URL: <https://www.unicef-yamaguchi.jp>

県協会地図



ボランティア登録、資料請求、その他お問い合わせ等は、事務局までご連絡ください。

また、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

受付日：月・火・水・木・金

受付時間：10：00～16：00

山口県教育会館の裏になります。